



みのり

発行所 金光教寝屋川教会

〒572-0037 寝屋川市葛原新町 1-11

TEL 072-829-5129

Eメール koichiyasui@yahoo.co.jp

はげまされ、支えられ、 おかげさまで、生かされている

パリ五輪が感動と喜びを与え、余韻を残して幕を閉じました。柔道、バレーボール、サッカー、バスケットボール、バドミントン、水泳、ゴルフ、体操、卓球、レスリング、フェンシング、スケートボード、自転車、陸上競技、マラソン、その他、五輪にこんな競技があったのかと思わせるスポーツもありました。日本の選手は金メダルを20個、銀12個、銅メダル13個を獲得の大活躍でした。

ただ、晴れて入賞した選手ばかりではありません。ケガをしたり、体調悪く、メダルを取れず悔し涙を流した選手は、たくさんいたことでしょう。素晴らしいことは、そういう体験を教訓にして、改めて次に目標を立て、努力を続けたいと抱負を述べる選手が多かったことです。これは他人事でなく、自分のこれからの生きる姿勢への手本を示してくれたことでした。しっかりと目標を定め、日々に精進し続けていくことができれば、きっと素晴らしい人生が送れることだと思いました。

目的ということについて、金光教祖は「信心は的なし信心ぞ。無的（むまと）の信心ぞ」と説かれています。これは、的（目標）をもたなくてもよいということではなく、一人ひとりのおかれた境遇が違うので、おかれた境遇の中で具体的に目標を定め、祈りをもって努め、毎日の生活を大切にしていくことだと思えます。

ご祈念していていつも心に迫ってくる教えは、「天地の間におかげ知ったものなし。おいおい三千世界、日天四（子）の照らす下、万国まで残りなく金光大神でき、おかげ知らせいたしてやる」（お知らせ事覚帳）との教えです。

例えば、高い山に登る道は山麓にはいくつもあるけれど、頂上に近づくほど道は一つにつながってい

きます。信心で言えば、その頂上にあたる教えが、「万国まで残りなく金光大神でき、おかげ知らせいたしてやる」だと思ふのです。

まずは朝、目覚めた時に、「金光様、日々有難うございます。今日の命を賜わり、目覚めさせて頂き、ここまでの無事にお礼申し上げます。どうぞここからも心身の健康、今日のなすべき御用（できれば具体的に）成就をお願い申し上げます。願わくば、身代と人間と達者の上におかげを受け、信心の喜びを周囲に伝え、ご神願成就のお役に立たせてください」と心中ながら教主金光様にお取次願い、元気に一日の御用を進めさせて頂きたい。そして、一日の終わりには、「金光様、今日も有難うございました。すべてにお世話になり、無事に過ごさせて頂き、（難儀に出遭った時には）大難は小難にお守り頂き、お気づけ有難うございました。どうぞ改まりと信心向上のおかげを蒙り、世のお役に立たせてください」と祈りつつ、安眠のおかげを蒙らせて頂きたく願っています。

○

さて、私ども夫婦にとって、8月18日は妻ゆかり先生73歳の誕生日、翌19日は私の76歳の誕生日です。誕生祝というのは、周囲から祝ってもらうよりも、「元気にここまでお育て頂き有難う」と親に感謝し、周囲に感謝し、生かされている喜びからするべきものだとこの歳になって思います。

去る8月15日（木）、私たち夫婦は子どもや孫達14名で寝屋川市石津の教会奥城に参拝しました。その後、ゆかり先生の提案でみんなで揃って『箕面スパーガーデン』に行き、食事、水泳、入浴を楽しみ、夫婦とも元気で誕生日を迎えられることを喜び合いました。

まもなく秋分の日となり、秋季霊祭を迎えます。それぞれが自分の誕生に思いをはせ、親先祖のご遺徳にお礼と喜びの心を捧げ、ご祭事に臨みたく願っています。（教会長）



教会奥城に教会家族で参拝

生きることにすばらしい

『今日が人生最後の日だと思って
生きなさい』を読んで

安井 光一

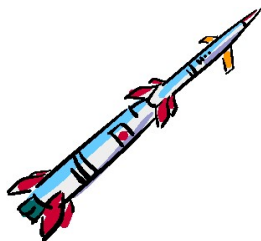
今の世は知恵の世

人間がさかしいばかりで

わが身の徳を失うておる

理解1 市村光五郎の伝え〔金光教教典 P250〕

日本は今日、科学技術の
発達や、多くの人たちの努力、
また犠牲によって、便利で
快適な暮らしを享受できるよう
になったことは、有り難いこと
です。



しかし、ここ半世紀程を
振り返った時、あまりにも効率を
優先した合理化や、他を蹴落として
でも自分が上に、といった思想が
はびこってきたように思います。

折角、一流の学歴を経て社会に出ても、
官僚の横領やわいろ、不誠実な企業人の
経営など、愚かで惨めなことが多発
しています。教祖様が今おられれば、
この状況を何とご覧になるでしょう。

改めて、人間の本当の生きるべき姿
とは何なのか、問われていると思
います。私利私欲ばかりを求め
るのではなく、私たちが今まで与
えられてきた恩恵を、しっかり見
つめ直しお礼申し、広く世のお
役に立つ人とならせて頂きたい
ものです。

「人間が利口すぎると、せつかく
こうむっているおかげを取り外す
ことがある。知恵が走り過ぎて、
神の上に行くからであろう」とも、
教祖様はおっしゃっています。

(天王寺教会発行『生きることにすばらしい』
第2集より)

令和6年教会の願い

金光様、日々有難うございます。
和らぎよろこぶ心を土台に
身代、人間、達人の上におかげを受け
世のお役に立たせてください。

おかげさまで、昨年8月より後期高齢者の仲間入りをさせて頂き、医療費も減額され、大事にして頂けることは、有難く、勿体ないことです。最近、訃報が気になるようになりました。年齢の近い方が亡くなれますと、いずれ遠からず、私もこの世とお別れの時が来ることを思わずにいられません。終活という言葉が他人事ではないと日に日に思うこの頃です。そんな私に『今日が人生最後の日だと思って生きなさい』(ホスピス医・小澤竹俊 著)の本が良い示唆を与えてくれましたので、少し紹介させていただきます。

著者は、約30年間、ホスピス医として従事し、2800人以上もの人を看取られてきました。人は今日を最後の日と思うことで、自分にとって何が大切なのかということに気がつく。それが最後を迎えるまでの生きる支えとなるとホスピスでの体験を語られています。人生の最後に大切だと思う中身は、信仰であったり、仕事であったり、趣味であったり、家族であったり、友人であったり、人それぞれ違うわけですが、それらは身近なところにあると言われます。更に最後の日と意識することで、今まで当たり前と見過ごしてきた日常が有難いことだったと気づき、感謝の気持ちと共に、日常を大切にすることも生まれてきます。地位や名誉、お金などは死を目の前にした者にとっては、価値の再考を迫られることでしょう。それよりも、食べたいときに食べられ、トイレに行きたいときに歩いて行ける、風呂にも入れ、夜も眠れる、そんなことができる日常が幸せの元だと気づきます。思い通りにできなくなった時、それを信頼できる他人に任せる気持ちの整理が必要となってきます。そして、無力の自分を受け入れることも大切です。お世話になり、お世話をし、相互に理解し合える関係を持ちたいものです。

多くの人の死は、赤ちゃんが生まれ、育っていくプロセスと真逆で、だんだんに食が細くなり、眠る時間が長くなり、やがて呼吸が浅くなって、意識が消え、ひっそりと息を引き取る。耳は最期まで聞こえていると言われますから、感謝と安心の思いを言葉で伝えることも大切です。そうすることで亡くなられた後も、きっと故人は言葉をかけたその人の心の中で生き続けられることでしょう。

以上のように私なりに理解し、どのような境遇であれ、今を大切に生きたく願うものです。

金光教少年少女全国大会

8月4日（日）朝6時、レンタカーに8人が乗車し教会を出発。日曜の早朝ということで、道は空いていて順調に進み、予定より早めの9時30分に御本部到着。お広前では、教主金光様がお結界にお座りで、「金光様、日々に有難うございます。本日の少年少女全国大会に子や孫たちと共に、8名が無事に参拝させて頂くことができました、真に有難うございます。この後も、皆元気で大会に参加させて頂き、世のお役に立たせて頂きますよう、お願い申し上げます」とお届けさせて頂き、金光様からは「結構でした。後々、おかげを蒙られますように」とのお言葉を頂きました。

10時30分に、中近畿少年少女会の一員としてパレードに参加しました。また、第五ブロックプラスバンド隊には、安井光信さんは大太鼓、松ヶ角美和さんと紗良さんはトランペットで参加。安井史佳さんと敬太さんは、隊列の先頭で横断幕を持ち、多くの人の声援を受け、行進に加わりました。

行進の終了後、休憩所で昼食をとり、わかば祭には参加せず、沙美の海水浴場で泳ぎを楽しみ、予定より少し早めに、教会に帰らせて頂きました。



秋季霊祭のご案内

朝夕に秋の訪れを感じさせるこの頃となりました。残暑まだまだ厳しいですが、暑さ寒さも彼岸までと言われるように、やがて穏やかな好季節となることでしょう。

まもなくお彼岸です。心に安らぎを取り戻し、亡くなられた御霊様を偲び、「お世話になり、有難うございます」と、感謝の真心を捧げさせて頂きたく存じます。お揃いで繰合せご参拝のほど、左記の通りご案内申し上げます。

記

・前日の御用

九月二十一日（土）九時～十一時半

※教会奥城の墓前祭は十時半より

・当日のご祭事

九月二十二日（日・祝）

午後二時より祭典奉仕



9月の予定

日	曜	教会行事	教会長、その他	日	曜	教会行事	教会長、その他
1	日	月頭祈願祭・14時		16	月		敬老祝(福祉委員会) (13時)
2	月			17	火		福祉委員役員会 (10時)
3	火		第五合同企画委員会 (13時、春日出)	18	水		
4	水		福祉委員役員準備会 (13時)	19	木		
5	木			20	金		
6	金			21	土	秋季霊祭前日御用 9時、墓前祭(10時半)	
7	土	第五連合・信心共励会 13時～16時半		22	日	秋季霊祭・14時	
8	日			23	月		
9	月			24	火		
10	火			25	水		みのり編集会議 (10時40分) 民生委員会(13時)
11	水			26	木		
12	木			27	金		
13	金			28	土	第五信徒会委員会 (14時)	
14	土	月例金光大神祭 14時、霊祭打合せ		29	日		地域協働協議会 (10時)
15	日			30	月		

9月の霊神様 (内は帰幽年月日)

早子利一彦乃霊(1939・昭和14年9月2日)

池端留吉翁乃霊(1966・昭和41年9月4日)

柴田伊三郎彦乃霊(1972・昭和47年9月22日)

村上タツ姫乃霊(1973・昭和48年9月5日)

宮本清彦乃霊(1991・平成3年9月19日)

竹本シズ姫乃霊(1993・平成5年9月15日)

竹田光男彦乃霊(2007・平成19年9月17日)

加藤俊朗彦乃霊(2017・平成29年9月20日)

9月のお誕生

安井佑飛様、永田兼治様、田村晃睦様、永田延妃様、松ヶ角暖真様、

永田雅昭様、増満久美様、上田原輝様、三浦真理子様、田島聡真様、

古川広道様、亀口政利様、角谷真子様 村瀬淳一郎様、お誕生日おめでとうございます！



